

2023. 1月

女性チャレンジ応援拠点だより



コラム

「“些細”に気をとめて、吉！」

新年が明けました。正月三が日もあっという間に過ぎ、慌ただしい日常がまた始まっています。今年はどんな年になるか、どんな年にするか、2023年の「計」を立てて、実践していきましょう。一年毎のしっかりとした積み上げが飛躍を呼び込みます。

さて、今年最初の『チャレンジ再発見一思いのほかあなたを拓くアプローチ』は、「些細”に気をとめて、吉！」です。大昔から言われていることに、「困難は易しいことから起こり、大事は小さなことを起こる」。だから何ごととも問題が易しいうちに、小さいうちに対処しましょうと説いていますが、それが中々できない。易しいうち、小さいうちは、見えにくく、気づきにくいので、ある程度の事になって、慌てる。それがわたしたちの常です。

でもみなさんはそうならないよう心がけましょう。ワークとライフを自分で拓くチャレンジャーとして、自他どもの状態や動きにセンサーを働かせ、些細な、微妙な変化に気づいて対処できる自分自身をつくっていききたいものです。

例えば、何かの打ち合わせ、交渉、商談などの場面。自分が話している最中に先方の表情が少し変化した気がした、でも話しの途中なので、そのまま続け、先方もそれでよしの感じだったこともあって、最後まで話し終え、特に異論もなく面談をしめくり、席を立った。こういったシチュエーションの時、「表情が少し変化した気がした」はそのまま忘れてしまいそうですが、しっかり思い出しましょう。

なぜ表情が変化したのか、推測して、それに応じたアプローチをします。上記のケースでは、話し合いの結果メモとしてメールを送り、「何かお気づきの点などがございましたら…」と先方の意図と一致していない点を指摘してもらうプロセスを加えるのも妥当なアプローチの一つでしょう。

他の人だけでなく、自分自身にも気をとめます。感情の些細な動きや感覚の微妙な感知、何かの拍子にぱっと思い出したこと、など等です。例えば、誰かに自分の考えを話している時に、話している自分をずっと意識している場合は、何かがあります。ひょっとすると、話している相手と自分のスタンスとが、かなりかけ離れているせいだからかもしれません。

スタンスがかけ離れていても悪いということではないので、いつもと違う自分を感じても、それ自体は氣にとめず、同じ相手とまた話す場合があるとしたら、話の内容や話し方を工夫する方に気を回しましょう。

ともあれ、些細なこと、小さなことから、事が運び、よくもわるくも物事が生っていきます。“些細”を見逃さず、「吉」を引き寄せて、2023年を明るく、大らかに進んでいきましょう！

そう呼びかけるわたしたち『女性チャレンジ応援拠点』スタッフも、みなさんそれぞれの些細で微妙な〈あなたならではの〉に気をとめて、応援しています。どうぞ気軽にご利用ください。

女性チャレンジ応援拠点

場所：大阪市天王寺区上汐 5-6-25 クレオ大阪中央 4階
電話&ファックス：06-7659-9640
メール：women-kyoten@danjo.osaka.jp
運営：大阪市立男女共同参画センター中央館

※開室日

※日・月曜日、祝日、祝休日の翌日は休業

火	水	木	金	土
10:30 ? 12:30	18:00 ? 20:00	13:00 ? 15:00	10:30 ? 12:30	13:00 ? 15:00

※開室時間内は自由に出入りいただけます。
お気軽にお立ち寄りください。

